

大麦だより（第3号）

令和4年11月
J A 能 美
南加賀農林総合事務所

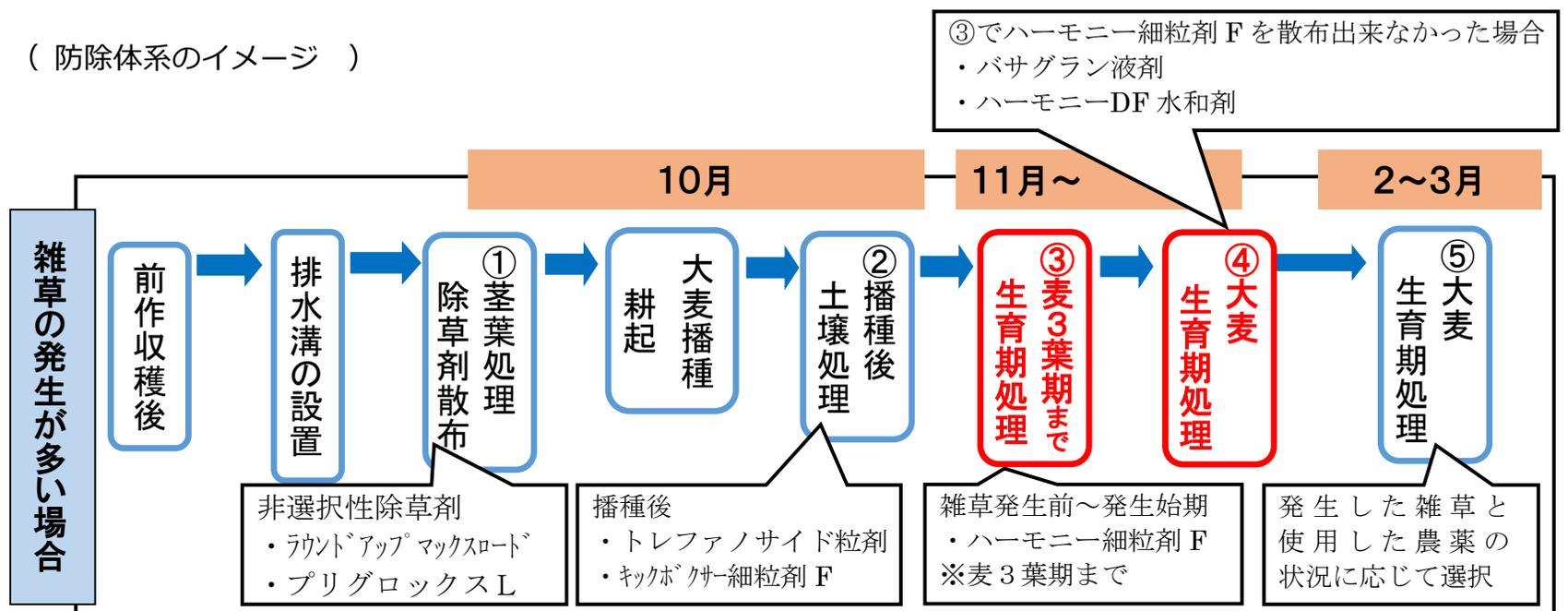
至急、除草剤散布を検討してください！

1. 除草剤散布（大麦生育期処理）

播種時の碎土率が低く（土塊が大きい）、土壌処理剤の効果が早期に切れてしまい、**雑草が多発しているほ場があります**。雑草の生育が進むと除草効果が低下するため、**早急にほ場を確認し、除草剤の散布を検討しましょう！** **秋に発生した雑草が繁茂すると収量が低下します。**

薬剤名	散布時期	10a当り使用量	希釈水量	使用回数	備考
ハーモニー細粒剤 F	10～11月	4～5kg	—	1回	・雑草発生前～発生始期 ・播種後～ 麦3葉期
バサグラン液剤	11～2月下旬	100～200ml/10a	70～100ℓ	1回	・ 1年生広葉雑草 ・雑草発生初期。 収穫90日前まで
ハーモニーDF水和剤		5～10g	100ℓ	1回	・1年生広葉雑草 ・スズメノテッポウ5葉期まで ・播種後～節間伸長期まで

（防除体系のイメージ）



（10/27 大麦ほ場（川北町））

左図のように雑草が多発している場合、

至急対策が必要です。

ハーモニー細粒剤 F

又は

バサグラン液剤、ハーモニーDF水和剤

を散布しましょう！

※ハーモニー細粒剤 F は麦3葉期までしか使えません。

10月上中旬に播種したほ場はすでに3葉期に達している

可能性が高いので、注意が必要です。

雑草の特徴

<ハーモニーDF 水和剤>

1 「コヌカグサ」

- ・越冬性の多年生イネ科雑草で、**種子だけでなく、地下茎でも増殖する。**
- ・1穂当たり約1,000個の種子を付ける。
- ・**発生後に効く、有効な薬剤がないので、発生前の処理が重要である。**



2 「スズメノテッポウ」

- ・一年生（越年生）のイネ科で、繁茂すると減収だけでなく、収穫作業にまで支障をきたすことがある。
- ・播種間もない頃から出芽し始め、春先に伸長を開始し、草丈は40～50cmになる



3 「スズメノカタビラ」

- ・一年生（越年生）のイネ科で、出芽は播種間もない頃から春までばらつく。



<バサグラン液剤>

4 「タネツケバナ」

- ・一年生（越年生）アブラナ科で、秋に発生し、越冬する。翌春の早い時期から生長する。
- ・種子は、地表1cm以内の浅い層からの発芽に限られる。



5 「カラスノエンドウ」

- ・越年草のマメ科で、生長すると草丈が50cm～1mになる。
- ・**収穫作業に支障をきたすだけでなく、種子が精麦の中に混入し、問題となる雑草である。**



<難防除雑草> 手作業による除草が必要

6 「カラスムギ」

- ・1年生イネ科雑草で、5月から6月にかけて成熟し、ほ場内に脱落する。
- ・脱落した種子は休眠状態ですぐには発芽せず、その後の乾燥・高温条件にあうことで発芽する。
- ・**地表にある種子は9月頃から出芽するが、地中のものは春先まで遅れて順次出芽する（土壌深15cm程度でも発芽する）。**
- ・**有効な除草剤がなく、発生後に薬剤のみで抑えることは困難である。**



7 「ネズミムギ」(イタリアンライグラス)

- ・越年生イネ科雑草で、幼苗で越冬した後、春に生育が旺盛となり、初夏に開花結実する。
- ・**麦播種前から発生する機会が多く、耕起を丁寧にやってよくすき込まないと容易に再生する。**

